

西去夏水蝗稻穀不熟民憂之曰來冬春夏天下大飢
〔會津塔寺村八幡宮長帳〕永正八年辛未次には五六月雨ぶり又はむぎは七十づゝうれ申候八月
より稻にすくはくの虫たかり候て秋米は一貫四五百文ニうれ申候へ共うりかいもおもふ様
になく

天文十五年丙午七月七日すくはく、ふり申候

〔嚴助往年記上〕大永六年丙午十月廿日當年虫損之故年貢三分一抑留之由百姓注進之云々言語道
斷之次第也○中略

天文八年己未閏六月同八月十五六 大洪水當年世上不熟虫損過此以外事云々

〔續史愚抄中御門〕享保十七年今秋西國有虫俗名五穀不登饑年代略記

〔十三朝紀聞四中御門〕享保十七年九月自夏西南諸道大蝗西海山陰山陽尤甚大飢於是幕府移關東
粟稟貸西國諸藩以賑其民十八年二月西南諸道益飢餓死者十六萬九千九百餘人於是幕府又
人發每男日給米三合女二合以濟億萬飢者

〔除蝗錄總論〕猪其享保子年○十の凶作といふは前年亥冬寒氣うすく氣候不順にして子年に至
り春雨しげく其後しばしく照又五月末より閏五月の下旬迄霖雨晝夜をわかたず六月初旬より
漸やむといへども氣候陰冷にして暑うすく又中旬にして白雨度々あり其頃より蝗生じ稻の
莖を喰枯しぬ於是諸國一統凶作して飢餓に至る所多く身うすき農民はうゑしするものすく
なからず此事書にも傳はり古老の口碑にも残りて聽も中々淺間敷事共なり

〔農喻〕第九金を持し者うゑ死せし事享保十七年壬子西國すべて大きんうんか也此事を
ねむしつき大此此時道にゆきたふれてうゑ死せし者おびたゞしく有けり其中に一人の男あり
しが衣類を始身のまはり腰の物に至る迄美々しくてなみくならざる出立ゆへに其所の者